



武蔵村山市立第一小学校 学校だより

令和5年11月30日



みんなで創る学校

校長 押本 純樹

先々週行われた少年少女サッカー大会（市教委主催）男子の部は、本校の5・6年生チームが優勝しました。予選リーグからの断トツの勝ちっぷりで、もしや今年もと思わせる期待感には十分でしたが、勝負の世界は、そんなに甘くはありません。勝ち上がってきたもう一方のチームは、とても強かったです。そのチームの戦いぶりを実際に見てみると、確かに審判団の武蔵村山市サッカー協会の方々も、口をそろえて「このチームは、強いね。」と言っているとおりました。

決勝戦は、どちらも一步も引かない好勝負でした。とても見応えがあったと閉会式での講評にあったくらいです。規定の試合時間内では決着が付きませんでした。最後はPK戦になるのではないかとふと思う中、延長戦に入る前のわずかな時間に、ひよっとすると本校が勝つのではないかと感じる場面がありました。

本校のベンチは疲れているにもかかわらず、チーム全員が橋本先生の示す作戦ボードに目を落とし、あれこれと意見を出し合っていました。専門的な戦術についてのアドバイスがあった後、「ここから先は、自分たちで考えて。」とは、橋本先生の最後の指示です。みんなで戦っている感じを受け、これなら勝てるかとも思いました。

結果は、延長戦で2点を入れて、本校が勝ちました。昨年度に続いての優勝、2連覇です。そして、このほかにもううれしいことがありました。

4年生チームは、他校の5・6年生チームに体格で劣りながらも臆することなく、果敢に挑んでいきました。見事にシュートを決める場面もありました。負けはしましたが、流す悔し涙から本気になってみんなで頑張った気持ちが伝わってきました。

杉の子・さくらチームにおいては、大会史上初です。特別支援学級の児童だけのチームで出場しました。子どもたちの方から出たいという声上がり、輪が広がりました。その中には女の子もいました。今までになかったことです。体育の授業でしか、ボールを蹴ったことがない子が、休み時間にも練習し、試合当日は、思いきり汗をかいていました。全力でボールを追う姿に通常学級も特別支援学級もありません。

この週には5年生の連合音楽会もあり、杉の子・さくら学級の児童も一緒に市民会館の大舞台に立ち、演奏を披露しました。他校との交流がある行事を通して、本校が目指す、みんなで創る「誰一人取り残さない学校」の姿が見られました。

これも本校を常に温かく見守ってくださる保護者や地域の方々の御理解と御協力があったことです。いつもありがとうございます。子どもたちがのびのびと力を発揮しています。



さあ、どうする